

新市立病院整備基本構想(案)について



令和4年(2022年)12月
箕面市

老朽化が進行

排水配管

劣化によるひび割れ、漏水（排水の停止）



電気幹線配管

電線管腐食（漏電による全館停電の危険性）



施設構造上の制約で最新医療への対応が困難

➔ 建替えは“待ったなし”

健康寿命の延伸・ヘルスケア拠点の船場地区

箕面萱野駅

市立病院移転予定地
(COM1号館跡地)

北大阪急行線

箕面船場阪大前駅

平成29年度に移転建替えを議決

移転先はCOM1号館跡地

新駅「箕面船場阪大前駅」から約300m(徒歩4分)の好立地

➡ **患者の利便性が格段に向上！**

市民、患者やご家族に真に必要とされる

「命と健康の砦」

「地域医療の核」

となる病院をめざし検討

箕面市新市立病院整備審議会

箕面市新市立病院整備審議会

市民 2名、市医師会・歯科医師会・薬剤師会の会長、
病院経営者 2名、公認会計士・学識経験者 3名



新病院のめざすべき姿や、担うべき役割と医療機能、
運営手法や整備手法等について答申



市として「新市立病院の整備方針」を決定



「新市立病院整備基本構想(案)」を策定

箕面市立病院は、
公立病院として存続
させます。

箕面市民の命と健康の砦となる公立病院

広域性・公益性を持ち地域医療の核となる病院

患者と医療従事者にとって魅力ある病院

高度かつ質の高い医療の提供可能な病院

断らない救急を実践する病院

広域災害時に
「市災害医療センター」として注力する病院

新興感染症の国内発生当初から
しっかりと対応する病院

救急医療 → 「断らない救急」を実践！

- ・箕面市唯一の二次救急告示病院として、
救急部門を含めた診療科体制の充実・強化

小児医療 → 「小児救急」の実施！ → 「小児専用病床」の確保！

- ・豊能広域こども急病センターと連携
- ・福祉と連携しながら、医療的ケアが必要な小児患者に
対応する体制の構築をめざす

災害医療

➡ 「市災害医療センター」としての機能確保！

- ・平時から大阪大学医学部附属病院などの災害拠点病院や、豊能二次医療圏の医療機関との連携を図り、災害発生時には速やかに医療提供体制を確保
- ・免震構造や非常用発電設備を備えるほか、医薬品等の十分な備蓄やそのための必要なスペースを確保

新興感染症への対応

➡ 国内感染発生初期から対応！

- 国内感染発生初期から入院・外来の診療体制を迅速に構築
- 病室の全室個室化による感染予防対策
- 一般来院者、救急患者、感染者の入口の分離
- 車両動線、患者動線の分離
- 医師会との連携による診療体制の確保

最先端医療の実施

➡ ICTやAI、ロボット技術の活用！

- ・今後の医療需要や医療技術の進歩を踏まえ、ICTやAI、手術支援ロボットなど最先端の技術を取り入れ、診療体制を充実・強化
- ・ICT技術を活用した遠隔診療など最新医療の実現に向けた取組の実施

がん診療の充実・強化

➡ **がん診療拠点病院として診療体制を充実！**

- ・内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」を活用
- ・手術や化学療法に加え、放射線治療の実施をめざす

急性期医療の充実

➡ 診療科の新設やがんセンター等の設置をめざす！

- 呼吸器・免疫内科や放射線治療科などを新設
- 幅広い疾患に対応できるように、医療需要の動向や診療報酬改定の状況等を見極めながら、必要な診療科の新設・充実・強化
- がんセンター等、患者に対し新病院の得意分野を明確に示すセンターの設置

回復期リハビリテーション病床の 継続・確保

- ➡ 急性期～回復期のシームレスな医療の実施！
- ➡ 循環器リハビリテーション等の実施！

- ・急性期病床と回復期リハビリテーション病床を併設し、急性期から回復期へのシームレスな医療の実施
(主治医との共観)
- ・今後、増加する急性心筋こうそくなど循環器病に係るリハビリテーションの実施

現状の診療科構成を基本とする

<内科系>

総合内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、
糖尿病・内分泌代謝内科、神経内科、精神科、小児科

<外科系>

呼吸器外科、消化器外科、乳腺・甲状腺外科、
整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、
泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科

<支援系>

リハビリテーション科、放射線科、
病理診断科、救急科(ER)、麻酔科

新設をめざすもの

呼吸器・免疫内科、放射線治療科、腎臓内科

見直しが必要なもの

産婦人科の「分娩」

- ・1,000件/年を超えていた分娩件数が、令和3年度では85件/年に減少
- ・大阪大学医学部において、医師の確保や働き方改革等の影響で、産科医の派遣先を集約化させる方向で検討



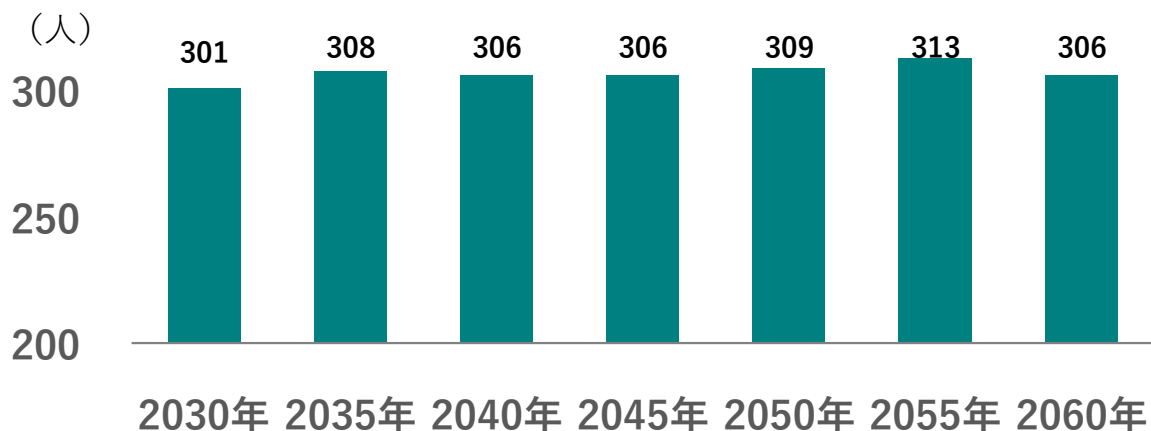
確実に医師を確保できない以上、分娩の取り扱いは必須としない



指定管理者から、医師の確保を前提に、採算性を踏まえた上で、分娩継続の提案があった場合は、実施に向けて協議

新病院の病床規模

今後の高齢化の進行や医療機能のさらなる充実・強化により、



一日当たりの急性期入院患者数（推計）

一日あたりの入院患者数は 300～315人程度



最低でも急性期病床数300床を確保、可能な限り350床に近い
病床数の確保をめざす



回復期リハビリテーションの継続のため専用病床の確保をめざす

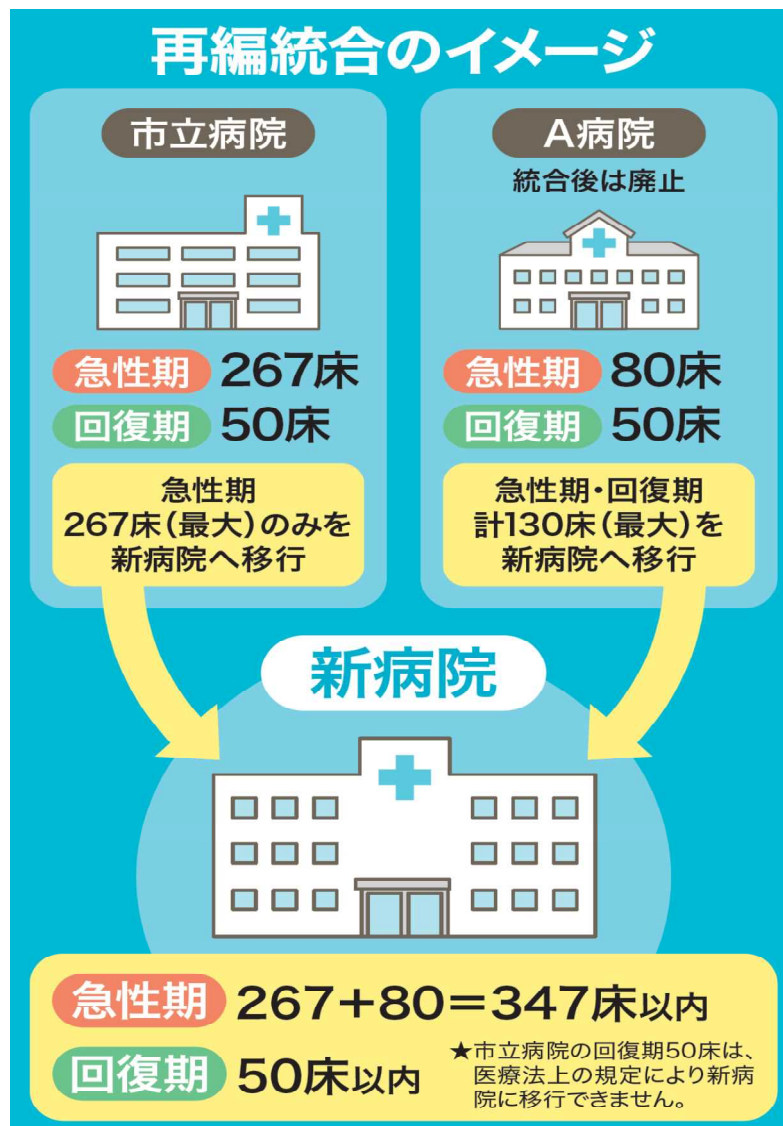
市単独の整備では…

**急性期病床267床の病院しか整備できない！
回復期病床50床もなくなる！**



- 将来の医療需要に応えることができない
- 急性期267床では、十分な症例数が確保できず、
医師確保が厳しくなる
- 現状の医療提供水準の維持が難しくなる
- 診療科の新設など医療機能の充実ができない

病床確保を実現するためには、 他の病院との「再編統合」以外にありません



- 1 将来の医療需要に応えることができる病床数を確保できる
- 2 回復期リハビリテーション病床も確保できる可能性が生まれる
- 3 新病院の整備事業費に対する国の財政支援が25%から40%に15%加算される
(仮に整備費を275億円とすると、財政負担が約40億円軽減)
- 4 病床の確保で、症例の確保ができ、安定した医師の確保が期待できる

再編統合の実現可能性を調査

➡ 「再編統合に応じたい」と答えた法人が複数！

再編統合に応じたいとした法人の新病院運営意向

➡ いずれの法人も「自らが運営したい」と回答！

将来の医療需要に応え、質の高い医療を提供する
新病院を整備するためには

他の病院との再編統合しかなく、
その運営手法は、指定管理者制度が前提

指定管理者が、公立病院としてしっかり運営できているか
チェックが必要

➡ 高度で専門的な知見を持つ第三者で構成される
市の「附属機関」を設置！

指定管理者による市立病院の運営に対して、
市がより質の高いチェック機能を確保し、
長期的かつ継続的に責任を果たしていく

附属機関の構成メンバー(案)

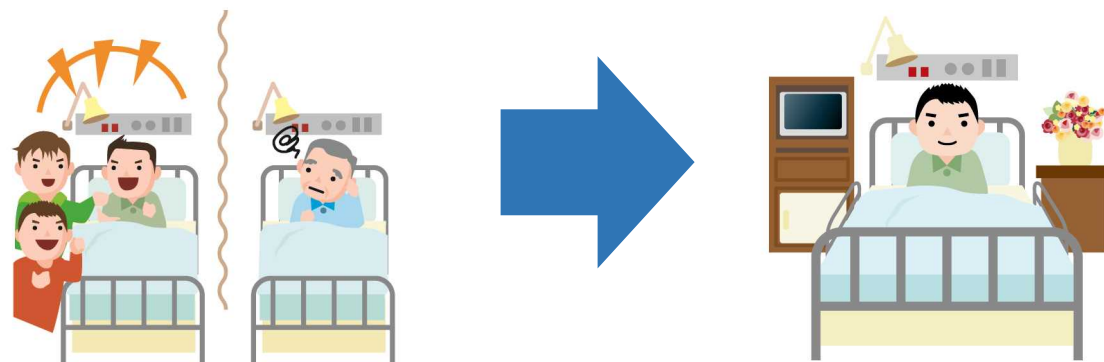
学識経験者、病院経営者、公認会計士、
弁護士、地域医療関係者など

長期にわたり良質な医療の提供ができる病院とするため、快適性、機能性、安全性、経済性等に留意して施設整備

全室個室化！

大阪府内公立病院では初めて！

感染症対策、プライバシーの確保など療養環境を向上



公立病院の場合、有料個室は、全病床数の3割以下と定められ、**7割は無料の個室**

整備手法

現市立病院の老朽化の状況等から、工期短縮を最優先に、「基本設計からのDB方式」または「ECI方式」により整備

整備スケジュール

令和7年度(2025年度)着工

令和9年度(2027年度)中の新病院開院をめざす

新病院の整備事業費(概算)

項目	概算事業費
用地取得費	9億円
設計監理・建築工事費	161～258億円
医療機器等整備費	42～44億円
その他(造成、駐車場整備、移転等)	14億円
合計	226～325億円

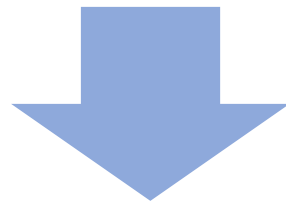
敷地面積 約14,700m²

延床面積 約32,600～42,100m²

- ・病床数を、最小で急性期300床、最大で400床(急性期350床に加え、現病院と同等の回復期リハビリテーション50床を確保できたと仮定)と想定
- ・建築資材や人件費等の高騰を想定し、1m²あたりの建築単価を最小で50.9万円、最大で61.1万円と想定

1 あいあい園の運営について

リハビリテーション棟1階の一部で運営している
児童発達支援事業所「あいあい園」は、障害のある子どもや
発達上の支援が必要な就学前の子どもとその保護者に、
生活をより豊かにするための療育を行っている



あいあい園と連携しているリハビリテーションについて、
指定管理の開始や新病院の整備に向け、
あいあい園の運営場所や方法、
児童発達支援センターの設置とあわせて検討

2 休日診療・休日歯科の運営について

市医師会・歯科医師会と連携して休日診療・休日歯科を実施



指定管理の開始や新病院の整備に向け、今後のあり方を検討

今後のスケジュール(予定)

日程	内容
令和4年12月12日 ～ 令和5年1月23日	基本構想(案)のパブリックコメント
令和4年12月19日 ～ 令和4年12月27日	基本構想(案)の内容も含め、新市立病院整備に向けた市長タウンミーティング
令和5年2月中	基本構想の確定

審議会答申で、「再編統合による増床」と「指定管理者制度による運営」を組み合わせるスキームは、『**公立病院を発展的に持続させる、まさに画期的なもの**』とされました。

このスキームに果敢にチャレンジし、『**市民の命と健康の砦として、市民に信頼される公立病院**』の新しいモデルをつくりあげます。



大阪府箕面市